狂言田舎操

冬

208
4
88

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88

ガラス使用

国立国会図書館
狂言田舎操 208-88

ガラス使用

とも 桂「サア ワカ てをとおてうらうべい 金「めでたくアワ
ロウ 「たあうらで 三人「シヤン〳〵 トもをうち ○芝居方そなへ
をうり

三人「ライそうや シヤン 桂「あうげで 桂「牛福〳〵 三人「シヤン
○豊年海作 三人「シヤン 三人「アイ
めでたく〳〵 桂「ウ 三人「うたさうな ○えび ○ライ 奥方 金「奥方
ウたとはあさうな 桂「ハイ〳〵 桂「イヤうわよはあさうな 縁
冥ざ初見ざ 家居義ざ たくりよはあさうなあり〳〵てえそ
こで ワ トもをうち 女方「仏
よるを ヨイ〳〵 ヨイ〳〵 シヤン トもをうち 女方「仏

でぐりまた　注「ヨウクヤ」よはまつさるおもあるさ」ア　注「伊」
のるもさ　注すさる　久しいもんさ　注「又はんく」もるうおい
よはまつ　注「おもの」○コレ〳〵○酒と呼ぶ八金の義にあるべと
いひまつ〳〵侍る○ソレト小判五両　注「なげて」
紙布をうつ〳〵
紙の出来へ　注「あと」〳〵でい　注「ハテ」注「千さる」々ふでかくこと
いくことに　注「結ア」注「もの」ア　注「金」もまつさるこはるべい
注「こ」こまりやもまつ〳〵　注「金」主ハこまるもくが亭主さ
まるさ　注「亭主」のこまることハ三年もあるとてくる　注「又」

そでまんさア元祿ゲ　注「元八」注「祝」注「元八」注「祝」注「元八」注「祝」注「元八」
注「さ」　注「恐」口おもだ。ホン〳〵　注「ほのるさ」〳〵。コレ〳〵
せうが者がよも氣にあるこべいはつ　注「氣」ふあるる。
注「あ」〳〵さ〳〵ゆるさ　注「あ」〳〵るとふあらがてへ　注「口」そこで
ちよいとメませう　注「あ」る西で　注「シヤン」〳〵。注「口」注「祝」て
こ度　注「ンと」シヤン。
○勧進元乃光景
今宵　注「のこと」来辺の大酒　注「ふ」とて。注「かんじんもと」勧進元の廣坐　注「ひろざしき」ふ

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88
ガラス使用

太夫三絃人形の面〳〵太夫丹ゝよ居ゐ〳〵して祝
儀の少謡一さゝの舞絃きゝバ盃盤狼藉上を下へ
とこねくりて毒所のおん後の狼唄撞もおりさに
ゆくる折しも中の君よ居る世話人きあまきの人
の宿割宮中一　コレ〳〵　同助どん今ごと頭取ハ
お役のきさゝハ役者中一同よりきまりて居ゐ人ごと
警固の御人ごゝ悪い云ふるゞさ太夫きさ人形ハ
こん形　三絃ハ三絃と部屋とバ別〳〵まりて居る

和さ一ツ家ふ長ぐいとさ　同助　おりゐとそりやそりゃ
ちゃゞ。樫千どんも モ。長太どんも連合の上で穀屋
引のつゝりよ宿割さ極ゝさるゞさ今更バア変替さ
らバひとんか物どんべい。穀屋をきる者も気ちゝく
どつゝべい。勧進元どれ真教寺どれ。四十八人ちふ人ゞ
一同よ云る筆ゞ極。ダガ山あと言者役役者の時
わどゞやあんゝ。あの付まきの申ゞう摺さ。チヨボ
を語る太夫さ宗ゞ遣人きて一

坐よるべし。男形ハ女形ハ別べつ〳〵とまるべしとこゝよし。
立着とりの者を生業とする者ハ皆
余〳〵とつけ。稼る者あんぞ毎晩孔が強ぎイ〳〵と。
あるりのときにぐんでまくちゃ
「それでも探の稼る者ハ道
ものをきまとるとり
作るゆゑ稼人。大まが浮場と少戸でうれハ便利
ゆゑ左のうまを振巻にして振まわしを二江ならや那
でもめんめんゆゑ。田舍でハ稼者ハいゝも稼よ。田舍者ハ
仕組人形のけいこを心得よ。
あげて人形のうら指さるゆゑ。
あ〳〵らひ。あ〳〵て本式のけいこ

まゝ〳〵浮場をこのまれ〳〵財布を
本まのくるを吹ておのれ〳〵ゲまをとる。
をとる居る男ハ頭ゑイ呼で浮合さ為てゑんべいのぢや
稼へる「それがようんべい。トいまを拍子とちりと稼ふ
とおもをゑんべ手拍までも石の玉屋の腐るまで。
さるゆゑ。ごうしゝさ。さはゆゑ。柳新ふの生るまで。
きタく〳〵きゝのさのく。さのきの金平狸の陰雲
あ〳〵同一拍十どん。いく碎ハまゝ〳〵ちゝて
たまゝんぬ。めでて〳〵「その唄ゑ何の唄ゑんぬ。

国立国会図書館　狂言田舍操 208-88

ガラス使用

「主等ガ生れぬ時代ぢ　権「ヲくサの」ガ二十歳の時分流行ると唄ぢア。ト　カうりの傍へサア〳〵宝草酒も　大あぐら　五「今よりそら惚んざんべい。穀屋ぢイ　あつそでやろ　十　モノ　頭ぢ　権「ヲ吟さ。そうりやア早海ぢ〳〵。穀屋別の帳面も仕通うぢ　「アノ亡頁屋の方ガ上手の三絃　権「さうよ　「こうでも同明ガあやア三絃の達ぢうのシ　同「釣金寺さるの達ガモノ。左手にある池さ　うんべい　「釣て惚ぐ悪いさ。三絃も同明ざれば眼へ答てくる

うんべい　玉「いろさ　「そこでト。大夫屋ハいろく肥くさ　ぐ上手ゆうのシ　権「ヲサ。大夫屋の好ガと三絃屋の上手ガ　とを二人おゝぐ〳〵ぐ　「権十どんそうやア　手ガ惚て惚ぐ　ざんべいぞ。眼ぐ〳〵ぐ学ぶてやうすいろ　べい　権「ハテ　権千一人ぐやうきあざ世話アるハ仕組ガ自　由ッくうあざらてさ　「夫ぐらハア惚て　玉「盲　屋の宮とるる者ハ平伏等ぐ　甲「掛さ強く別ゆて　やゝ〳〵やい　権「ハテいろさ。権千さまう世ておくらやエさア。

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88

ガラス使用

トまうす須まそ作るまあ〳〵〳〵〳〵紙元氣ごア有ア
「われぬことのろ
人を霊隠が世話ごとろの
同「何ぞ揚つごよろんべの
同っくり一人で往ぐのよ
「イヤ。そんな者で五福。同明よりやア鑒の好のごア
「大夫どん達よ塩幸よ
あ出ふ迷惑ある何でも浸斷同拔ふて陽清汁
食せろさ
「湯清が食る
合ふあり出ふ。試病人も音ぎ稼ぐ

めっせ五。不緣寶ふ聴師ろごア
「アア〳〵〳〵〳〵
「アコレ九ぐ〳〵ハ五。ごづふ〳〵。
〇ア。ようく近ろ来ごア。清ろよ斯と〇ウム。ろれぐ去
どの三人往ぐご〇浄瑠璃ろりどのとろて来い云ま
「ヲサ。「大夫どの云ぐば同ごるごハ「あとの姉
ハ何ごのご「五九師度の仏のご「ヲ、「ごと方五

九郎右　「又海老屋るゝ」　「主が居ぬ内に傀儡をと申せば」　「サラく宿別」　「海ざら連て推まと」

「ライ。いつく早申付べ」　「時分抜つゝ迎よ来ものゝ」　「時ゞ這入の方の。客さよりつまらい」

「そこでと。あれもよう。これもよう。サアく主イ」　「大義ぢやく。引合せて浸して見せ。コレく奥」

「の元を早。支度を続ぢか。奥の方へ」　「お役者ハア支度出来ました。迎を抜つゝ」　「抜つゝ。」

「主ぢゃく玄関の方さ出てくだされ」　「サラく玄関へ。出てくだ。コレく。まんぢうイまてゝ遠めくぞ。茶どん給」

「く。出合さ引合せてよ。コリやく同助く。主もモノ玉ぢも」　「よく同と配るべいぞ。トまゆくゝ。玄関へ出。三絃」

「人形のくのこ」　「出てくして出る。」　「コレく宿くつけて来る。穂燈も」

「いつぶ。光別の赤いのゞハどうゝ。今蠟燭ゝ灯して」　「くるさ。トいつの間赤くなるやうなもちん。」　「さらく。提灯の」

「よよよつと振すべい。コレ明が有べい早く持て来い。」

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88

ガラス使用

トいふこちのことより雜物をもとり。たのまれて十四五年もちをる。

「それよ甚るべく〳〵。サア早く

ア駕ごナサア〳〵。嫁等

ぢくり〳〵。たのまれて四五年ぞの

ぢくりかくやく。

ハ主の先よりがうまうまう。コレ此るが肉よく傳言してくれ

ろくこそこそでト。お役者〳〵。支家がようくばこそでめでたく。

「祝門てまつあまの世こう。シヤン〳〵。シヤン〳〵。シヤン〳〵。シヤン。

「これより遊廓中の雜物をれくに配分して。遊の者の扇より

はつくれば業用ようちられて。おのがさるべく。

のようにもかの。たのまれあさりをてらして。

はぎもうあるる。いふこうりなし。

○田舍芝居義經渡海の光景

田舍芝居の地所ハ勸進元の家よりさぐて三十町も

隔つべく〳〵。甚国より仍て遠近の差別ハあれど所出のごと。

物産中樂屋ハの打物。ぢたち屋場拵。羊合羽よ

細牙の一腰。中貫草履。板金剛草鞋あんどおのひく

の形容高拙のえくをあく。それぞの氣散じ。

ぢくあるを。紙こよりて吉日にて。世話人を先に立あとより

荷ハ居風呂桶。息もきく〳〵。山道をのぼり下る。勸進

元芝居ハ人ものの通りとおぐり〳〵。勸進元「樣千どの出家

でごさる。（樣子）あふなそうな見物。今ゆかうとの。（見物）琉球人

のまうどこの。（樣子）ゑどんべい。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。

見ぐそ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。

見物一同。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。

看たうと。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。

アイ。看たうと。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。

芝居人。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。

ゆく。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。（樣子）ゑゝ。（見物）ゑゝ。

ゑゝ

類ト。金平牛蒡の甘うかの物ウ間ふまる乾物の甘うかのところ
シ　樵「それさモノ田舎芝居の定式ぢア。持運の世話人
と盛方の人よりく云付さろーやい。あホ食ふ者計
たんと食て。酒で食ふ者ぢよ菜ぢ肴ぢ。何でも
一人ぶ何程と當て先ゝ盛ぶるぢい。椀家具何
人あと極ねバ物ぢ云ふて。傀儡ぢ白
物をとるふ。急角椀の中で白粉を搗四ぶろ丈
ありよ失てあんねさ　且「世話人よ云なまるぢい牛一

のぢ　樵「さて芝居も繁ぶ早く仕て物言の早く終
ぶうぢいぢ。山海で日ぢ暮ちゃア。役者ぶも見物ぢふも
山ぶ暮ぶい　且「イヤ今度の舞臺へ上ぶて作ぶシ　樵「一膳
屋ハ内ちゃぢ。高雲人ぢ一人ぶ作ぶて少ぶ搗
別いぢ　且「舞臺法ハ云ぶ。ぶ芝居ある示ぶ
ぶる者二三人ハ有ぶ。ぶ芝居　樵「支ぢ。ぶ作ぶ
ぶ。　且「ぢ。ぢぢぶる。能く樵ぶ作ぶ。ト方へ。ぶ作ぶ
支三ぶ法の立者打つれ。樂ぶ人いぢぢ鼠鳴交り。

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88
ガラス使用

中ごろも古文の打物ハ。紫屋沼者の天竺人責会黒
縮緬の上着よ讃〜。紗綾形の間着も縮緬ちと流
行よ後れる黄八丈の下着の天鵞黒八丈の裕羽織
よ菅縫の五所紋紫細と縞よ結びて厚板の帯
厚皮仕入。とろか銀具をそと打る黒天鵞絨の道
中羅紗。左り代もたぶり〜と穿く。ゆもとりうける煙管
とろくむなつら屋燭打。いろねどもる丸三の汐上
くもとりかくるねども。天竺人の赤きふあ〜られたり。

芝居まで八一里あろう。あり〜〜い。低八イさあうで
ごせんす。トいふ供の男八ちりんの赤とれを二つゆ物て肩てたく。
出男元来江戸者ゆて。ちりゆの横ぴきとをけりとをを
ちりつして。おやうちしてあげくのそそふ。古文の皇帝
燭場ちりくもりてちりくもりてちりくもりた。おのそもきふ物ちりゆ男。
うまれつのその男ハ何ら者。なんでもこちのあちさま〜と。おびやりねりてる
ひろ〜ひ祝ち。こぶの供のたきまで。古法ともえ帝ともきえ。
ぬ為の江戸ちまり。てんこちもうき世ん。○盲人ゆ古ちき
あとちよつぶのて三絵のづる沢 供法郎。の男の着ゆまを
ちけ 徒て
て　まぐ芝居八つえぬりの。田舍者八考の男。山猫
小芝遣さ色さよで。三絵をひりせ浮るりを語〜せる
ぢゆ。めんちりう三佛 世母芳。トあゆものて鼻でぐの 春天文
ゆうか 新者とて

さん。春「ハア」住「あまり遠者かは遠ざらやあり」春「イヤあまり遠者でもあいらん」住「幼進元へいって。習ってゝ増ます」

せっぐらやあるまいか」春「サア移もちっとあれど。外の流ぐ合点せまい」住「何の事ぞ。外ハ外。此方ハ貴国で乗るのぢや。」ト鼻のつまりをいふ。供「ホンニ。こりや住二郎さんのぐたい。」

ど。藤「づくあっかまるハあっちゃ。あんまり手ぎきぢ絵」。ト手をもってゆくわと。供「アレ〳〵大ぜ敷がきこえる。」サア

春「芝居ぐ見えるく」。トがくやの

方へ向をぎゆく。○斯て近郷の男女老少。籠ヨさ〳〵と見物せんと。押合ふ合ふ芝居の本ア口。うんざりのうりにきせるをさくる女あれバ。茶たばこをすかす。子ハ行のぐんらぐくまひつけるあやぢもあり。又れ一ホよ藤とっちらんとあっちこっちひ走る中やも。三十五の〇ちっぢっちきんかまぐふきまぐふきまわるぐひゆてあっちこっちかっちまぐ絵ぐくっちまぐ世話女房。三三郎ある小ぜをいぢきぢけ長ぐゆ色きをりきぢを。●あっぢエイ。おっぢ待ろ。あんぐ。○おっぢ。エてあのあやまちよあ

ガ果ぐくの歯。▲けっぐよ。あれエ嘩ぐとこ。イまく歩ぐ。

おっぢ新家のおっぢと絵本しゃ。おっぢに遅ぐ来あんぬ。ト又子●エて待ろ。ぐ。同表示絵ぬ。ぐれ

ろ〻。待のこゝいあまぐ。コレ。氏兒ちつと爾工。▲そゝんかゝと
をゝてあると。おきゝぶ。おきゝら。●おきゝ。呼れて。▲おきゝイ。
○おきゝイ〻〻。ヤイ。まるの■あんざゝ爾工ト主
向ゆて　とある▲同志よ
待〻〻待ろ工。山内母親。ちちゝふちやゝんで茅をとき。山賊を
たぐよ。爾ふ。山とき。殺のまゝ。ふきゝゆ。
●ヤレバア。肇さげざ　サア　いぐぐぞ　きれ〻〻。ドリヤ　おゝもお
きろぐい　ト　ぐゝうてんに○田舎の操茶屋八正面
ありてゝ　しゆく
本陣茶屋より本戸口まで。凡二十間余あるべく駕
舁きこ構へり。茶屋掛りへ藤屋養を家根ふき渡せり。高

人店ゆをあゝぶ。別煙草。小間物店。雪踏傘。小物
類。干菓子。水菓子。何でも彼でも。撰取て十九文の
賣居。茶屋を貝當小店をこしらへ。賣酒屋八
うぞくも居ぶ。これを呼て表茶屋。うつ。本戸より中
店を開きて。鮓。團子。酒。牡丹餅。を賣るたぐひ。中
茶屋。と呼べり。〈〈〈

ハごぞうまつれども兎の眼りうまつて。是より口よりて
ものてやとうまつる陸へまつて。けぶ。函湯法る者共
とは富士へ山まゐきもされ。各様方へ賣つたえ仕まする
陸かいろぞうり大根よ者まりまります。さて是よひくえ
とりまもる八江戸表より石つれまくる大夫○酒本
呑夫夫り。次ぎ。割竹火鬼大夫。次ぎ。旅本旅籠
大夫り。次ぎ。釜本土鍋大夫。却ぎく。竹薪夫。
おぎく化本見越大夫。次ぎ。三絃絃沢佳次郎。

おぎく亀沢泥助。次ぎ。ひえ屋ますとる人形三絃人
山砂十郎。おぎく。宮惡流川土左弓。おぎく若
女形。平平平平。○右高うハぞうまつれども
より四月ゑ仕ります。大夫三絃人形の面く各様
方へ見れ賣へ仕ます。又ゑ明かる
ゑ仕組へ賣ホ。ます。浄瑠璃操名題。トいう
東西。慶獲雅名歌勝闘。三夫ます。
ゑ仕組へ賣ホます。次ぎ。五段後ホ

ゆるゆるとなりまして。妹背山婦女庭訓。芋屋目の切
と仕ます。ちれどもすぐくまでハ来ぬうござりま
されバ。山方よりおそ〳〵せのたゝ敷をおもするまでハ。
やふ〳〵ゆ〳〵敵のなどを隠〳〵限まで。づらり〳〵と参
ります。甚こわ口上さやう。チョン〳〵〳〵〳〵。ト幕あく。見物
●イヨ江戸口上さるア。篇沢さ寒貫るのめ。▲イヨ一枚看
板わ■ 移舞蓋どのゝ「妹背山ざ〳〵聽るざ〳〵。
「モノ仆よ雀とういふ所ざるア子 「貴門の畑の菜

の木ある。雀ガ三匹とウまつて五。とろ開らて。モノ上
繪屋ア番陽ハさ奥さるの中ふ人ガ茶灌ざるか
赤鍋ざるか。何でもハア。寄もつる絵物で阪さ樂くの
ざンシ 「べらぼういふ。そりやアモノ先代萩の浮瑠璃
で。お居さるの忠心ガあつて。ナア。惡人めガ自由ムう計
してざるもあん絵ア〳〵ナア。万く一おけざでもあるちやア
あん絵人とナア。そこでアレ。自身に阪イ樂くざ 「あハ
まあ狂言ざ。我ガるア。瞬九ふガあるを友達中して。

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88
ガラス使用

「ぢく」「蟬丸ぢやア強くて。千松さ　千松これや山。ゆく
も強くも別れてハト。あれも唄ぐらみけ子　「唄ざれど
あもこで唄ハ強。ぶく変て已ぐ息ゑの千松ぐア。千松
ぐア。一年ぢどもおぐさんえ強ハり。ト云ふて　「前さ　其
わ前ぢ勝でもうくこけ。声ぐ変て鼻くぬける変う
ざな　「びくぶうづくめ　「いの世山のお屋さ多の国ハ伊
ちろ　お姫さ多ぐ白雨よ出ぐて。沿布を冠りて逃ハ
ト。其お姫さ多物騒でも有ていう屋ぐ多紙引て

ぐ。ヤいさ多物騒でもあんめくて。其多とぐりして。
是強ぐ多養くまのそくヤ若い男ぐ出ぐ。「そ
ぢア風ぐんべい風の切ぐあぐんべいの「いさ多。卵の化さ
のうちん。其男の強ぐ多紙汁ぢ。娘ぐ。ちらちら
走りて来てヨ。汁糸巻の糸ぐ切ぐ。「風
ぐく。糸男ぐ切ぐ。いふぐ強ぐ。あれぐまぐとくと考さ
ぢア。其嬢の上屋さ風の糸ぐ。臭ぐ変ぐさをもあぶぐ屋さ
ぐう。切れぐ。ヤ切臭ぐさ。そこで。其男ぐ先へ駈切て。

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88
ガラス使用

風を見物ふぐろうけさのさ移りさ〳〵「そこで其姫が嘸
あぐ〳〵踊る「そりゃア踊る筈さ扨角上て扇が切さん
ごろら浦てぎごんごと踊べいさ「マア幕が明さうなるが
いそこぞ行ふ雀さうさうあぐ「ハテどうもわんわ
ア〳〵さうさうあぐの間さる程言ハ鮫子の若和布烏賊の勝
時と面白さうごゑ「あのごのうあいのかちごきとあん
まりおきさる程名ごナ「何でも魚つしの程言ごさう
「ヨのへ移聽あんごあ〳〵さて出てあ〳〵移ぐ「そこ

ようさられが法りもあめて「どうして。程言の狂利どれ
ごのとまるうう翁海ハ上の限さ。△番チョン〳〵せの○見物
▲ヨウ〳〵〳〵〳〵。さ〳〵●サア〳〵ちやく摩手ろ〳〵大夫どの
三番ごりどの天よるに新手そ傀儡どの面彩か
ま〳〵稚でもいごで。お世話人蠟燭がだらごで。トいわろう
甘のあが入る。唐ま出て又くちち
三味線をしる。チョン〳〵まくまき。△こまいのたごを
ゆうの中ようさう寺「迷ひたご匡
門弟。第代ごひくを表ごまで。きせ元ね三猫ハ空り出。トはたを
ホおこ痛の人形。花ごまり出る場面れど。
花ごうさうゆるがくやにのまりとう出る。▲見物「ヨ〳〵〳〵

トくもとてきそどりとりて「ヨく志よるやきおもあつてアリ。ヨく
志よるやきるり。外のゐ物
生の物ゞ浸村屋アリ。浄るりもの「お姉が被まおりて来るく」と豆
腐屋さげあるを来るやくとあびかてをべ。ブイよのことむ事ぞん
▲見物ヨウおさんどめリ。豆腐のゆ月が溜ゞ〳〵田の事アリ「む
志ろて豆茶ふまゞのぞ。●東西〳〵。浄瑠璃がこうんれく。だ
まりてゞゐれエ。「うくひ事をると泣くも。涙ふ志ゞる拵へ鞦
ふ。ふ泣ふ志よう。行ふサ雀ハナヲヨ。▲見物丈そこゞゞ〳〵。浄るりの穴を
さゞを男とヨウ〳〵志ゞるありがてくゞで。腮くも事るくも異

の下ゞ泥部るくも。頬〳〵ふ部て同どくん稲ゞるくも。ふ志
るゞく。●ぢゞく。後帯イ志ゆて志ゆ裸ハ平等性る志
るゞゞゞゞ。うまゞ。■西瓜と机へ押うてあくゆで腮と頬
さ押へもあるゞうまゞハ稲くゞゞ。●表ゞでん
ぬゞてうまくたのんまと▲志〳〵喘吐と被同ゞ為ゆくゞ。●聖人廉
ら遠て見えるるゞ物ゞ打ゞ垂けの。志ゞどんどうて為る方ゞ
あんめき■志ゞどんゞ頭ゞん稲ゞるふ三絞ゞぢうどのゞ性
同ゞ稲ゞぶう長るうら志貢ゞどのヨウ〳〵序に傀儡どのもうて

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88
ガラス使用

208
4
88

神おろしやい●こそこそ　○ト見物こる者もあるそ。ほくぶあく物
くらし。時るぐる夕立雨。ひとまりさけとまり
なる。ちそて見物人の問答。大雨車軸と。ぎくのうきめあり。雷ふはくる。惣連中も。微雨ふ迷惑して。
浮雲のおろくく。時ぐざる
雷一声●ドロくく●▲そりやおろんぐちさるぐぞよ。○「又雷一声　ドロくく。

まづ今日は是限

行事〜の太鼓　ドロンくくくく。○「又雷一声　ガラくく。

「大鼓にまでなて　ドロンくくく。○ガラくくく。○世話人　「初日八後編で。

初日は後編浮判で〜。

狂言田舎操巻之下終

筆者　藍庭晋米

○文化八辛未年来聘
○正使　金履喬　○副使　李勉求

文化八年辛未冬十一月吉日

畫圖　喜多川歌麿

筆耕　判治晋蔵書

板元　江戸本石町十軒店　西村屋源六
對州大町　三木屋喜左衛門

賣弘願人　全　田所町　鶴屋金助

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88
ガラス使用

国立国会図書館　狂言田舎操 208-88

ガラス使用